福井大学リポジトリ
UNIVERSITY OF FUKUI REPOSITORY

日英多義語の認知意味論的分析:「マダ」と“still"

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-01-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 皆島, 博 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/8677

日英多義語の認知意味論的分析

ー「マダ」と“still”ー

皆　島　　博*

（2014年9月29日　受付）

キーワード：多義語・多義性・意味拡張・認知意味論・日英対照言語学

1. はじめに

本論では，日本語の副詞「マダ」と英語の副詞“still”を取り上げ，その多義構造と意味拡張，および，その動機付けについて，認知意味論を理論的枠組みとして，日英対照言語学的な分析を行う。「マダ」と“still”は，時間（アスペクト）にかかわる概念として「ある状態が続いていること」を基本的な意味としている点で類似している。

（1）日：五月のカナダはマダ寒い。
　　英：It's still cold in Canada in May.
（2）日：ジムはマダあの古い車を運転しているのか。
　　英：Does Jim still drive that old car?

また，時間にかかわりのない（非アスペクト的）意味においても両語は高い類似性を示す。

（3）日：去年の冬は寒かったが，今年はマダ寒くなるだろう。
　　英：Last winter was cold, but this winter will be still colder.
（4）日：それには理由がマダ他にいくつかある。
　　英：There are still other reasons for that.

認知意味論では，上のような「マダ」と“still”が提示するさまざまな意味は無秩序に派生してきたものではなく，プロトタイプの意味（＝基本義）を出発点として，なんらかの認知的動機付

*福井大学教育地域科学部人間文化講座

け（メタファー，メトニミー，シネクドキ）によって意味拡張を展開し，相互に関連性のある意味と意味とのネットワーク，すなわち，放射状カテゴリーを構成するようになったと考える。本論の目的は，「マダ」と “still” に関して，次の４点について，認知意味論の立場から記述を行い，それらを明らかにすることである。

（５）a .「マダ」と “still” の複数の語義の認定
　　b .「マダ」と “still” の基本義（プロトタイプ）の認定
　　c .「マダ」と “still” の意味拡張の動機付け（隠喩・換喩・提喩）の認定
　　d .「マダ」と “still” の多義構造にみられる類似点と相違点の指摘

2. 語の意味拡張と放射状カテゴリー

一般に，１つの語が２つ以上の意味を持つ場合，その語は多義的であるといい，複数の意味・語義をそなえた語を多義語という。このような語の多義性について，認知意味論では，カテゴリー拡張の結果生じたものと捉えるのが一般的である（Lakoff 1987；Sweetser 1990；Taylor 1995）。カテゴリーとは，アリストテレスの時代の古典的カテゴリー観では，そのすべての構成員が構成員であるための必要十分条件を満たすと定義される集合であり，中心的構成員と周辺的構成員の区別はないと考えられていた。しかし，近年，古典的カテゴリー観は語の意味の分析には必ずしも適さないことが指摘されてきた。非古典的カテゴリー観では，カテゴリーの構成員の必要十分要件は，「＋（プラス）」か「－（マイナス）」かの二元論に基づいて与えられるものではなく，構成員の間には中心的構成員と周辺的構成員の区別が存在するだけで，カテゴリー間には明確な境界線は存在しないと考える（Wittgenstein 1978；Labov 1973；Rosch 1975；Lakoff 1987）。

認知意味論では，多義語という一つのカテゴリーは，多くの場合，古典的カテゴリー観の要件を満たすものでなく，カテゴリーの中心にはプロトタイプ的意味（基本義）が存在し，そこからメタファーやメトニミーなどの認知的原理（動機付け）に応じて複数の方向へと意味拡張が展開していくものと考える。このようなカテゴリーの最も一般的な形態が放射状カテゴリーと呼ばれるものであるが，放射状カテゴリーは，Lakoff（1987）で提示されたカテゴリー・モデルであり，中心（プロトタイプ）的メンバーを取り囲むように２次的に周辺（非プロトタイプ）的メンバーが位置づけられ，その２次的なメンバーを中心にして，さらに３次的に周辺的なメンバーが位置づけられるというように，結果として，幾重もの円が放射状に拡張していくカテゴリーをいう（辻 2002: 238）。

認知意味論において，このようなカテゴリー拡張を引き起こす要因（動機付け）として主要な役割を演じるのが「隠喩（メタファー）」「換喩（メトニミー）」「提喩（シネクドキ）」と呼ばれる３種類の比喩（言葉の彩）である。これらについて，佐藤（1992），瀬戸（1997），瀬戸（2007a, b），籾山・深田（2003）にしたがい，次のように定義する。

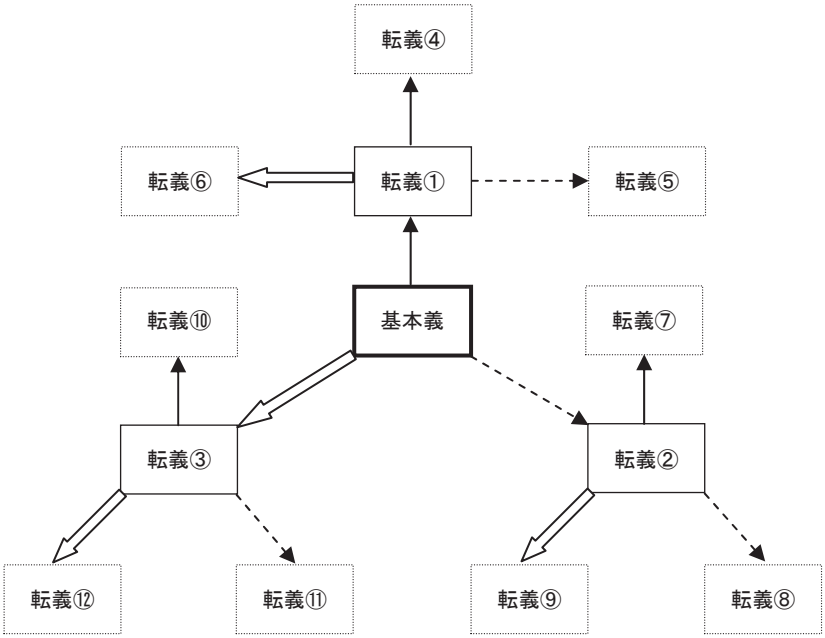
（6）a．**メタファー**：二つの事物の間に存在する何らかの類似性に基づいて，一方の事物を表す形式を用いて他方の事物を表す。

b．**メトニミー**：二つの事物の間に存在する何らかの隣接性に基づいて，一方の事物を表す形 式を用いて他方の事物を表す。

c．**シネクドキ**：一般的な意味（類概念）を持つ形式を用いて特殊な意味（種概念）を表す，逆に，特殊な意味（種概念）を持つ形式を用いて一般的な意味（類概念）を表す。

放射状カテゴリー（意味拡張）のモデルを示すと次のようになる（辻 2002: 238，瀬戸 2007a: 5，瀬戸 2007b: 41）を参考に作成）。なお，図１で実線矢印はメタファー（隠喩）に，破線矢印はメトニミー（換喩）に，二重線矢印はシネクドキ（提喩）に動機付けられた意味拡張を表す。

図１　放射状カテゴリーのモデル



上のモデルで，中心に位置する「基本義」が１次的メンバー（プロトタイプ）で，そこから，それぞれ，メタファー，メトニミー，シネクドキによって，＜転義①＞＜転義②＞＜転義③＞の２次的メンバーへとカテゴリー拡張をしている。さらに，＜転義①＞から，それぞれ，メタファー，メトニミー，シネクドキによって，＜転義④＞＜転義⑤＞＜転義⑥＞の３次的メンバーへとカテゴリー拡張をしている。＜転義②＞と＜転義③＞からのカテゴリー拡張についても同様である。なお，これはあくまで多義構造の放射状カテゴリーのモデルであるので，必ずしもすべての多義

語がこのような意味拡張のプロセスをたどるということではない。

3. 日本語「マダ」の多義構造

3.1　基本義

①基本義＜継続＞：｛発話前から始まった状態が，発話時も続いている，と発話者が捉える｝[(1)]

「マダ」の基本的な意味は，時間（アスペクト）に関するものと考えられる。次の例文における「マダ」が「いまなお」「いまだに」「依然として」などと言い換えることができることも勘案すれば，この語義が基本義[(2)]であるとみなすのは妥当であろう。

（7）　昨晩から降り始めた雪が，今現在（朝の７時半）もまだ降っています。雪は大好きなので，娘がいれば一緒に喜んだのですが，オランダで一人，しかも今日はオフィスに出ないとならない日とくれば，ちょっと元気がなくなります（笑）。

（http://nedwlt.exblog.jp/10516580/）

3.2　メトニミーによる意味拡張

転義②＜長期継続＞：｛発話前から始まった状態が，発話時も続いていることについて，意外感を伴って予想以上に長い，と発話者が捉える｝

（8）　そもそもみなさん，『美味しんぼ』の影響力を過大評価してますよ。今回の報道でまっ先に私が思ったのは，「まだ『美味しんぼ』の連載って続いてたんだ！」

（http://pmazzarino.blog.fc2.com/blog-entry-128.html）

ここで「マダ」の意味拡張を分析するのに，リー（2006: 156-160）における，参照点とメンタル・スペース[(3)]の考え方に基づく“still”の意味展開の分析方法を援用するのが有効である。これによると，上の（８）の例文には次の３つのメンタル・スペースが関係している：

（9）　Ａ：発話前の状態（参照点）
　　Ｂ：発話時の状態（焦点）
　　Ｃ：発話者の予想状態

つまり，Ａのスペースとは，『美味しんぼ』というマンガが雑誌に連載中，という発話前の状況である。Ｂは『美味しんぼ』が連載継続中，という発話時の（真の）状況である。そして，Ｃは『美味しんぼ』が連載終了という，発話時の発話者の（真でない）予想である。ここでの「マダ」

は，発話者の予想と発話時の現実との対比，すなわち，A（過去）を参照点として，B（現実）とC（予想）を対比させ，Bを焦点化しているのである。

上記のメンタル・スペースによる分析は基本義の＜継続＞にもあてはまるが，さらにここでは，「ある状態が継続している」という「原因」により「その継続している期間が予想以上に長い（という発話者の主観）」という「結果」が生じている。つまり，「原因で結果」のメトニミーにより 発話者の主観が入った＜長期継続＞という意味が派生している。

転義③＜短期継続＞：｛発話前から始まった状態の，発話時で続いている長さ（時間・日数など）について，比較的短い，と発話者が捉える｝

（10）　当方弓道歴はまだ一年且つ初段の初心者ですが，開始当初から橘の13kgを使用しています。的中は伸び止まりです。

（http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q13122561353）

ここでの意味拡張について，上の（10）の例文には次の３つのメンタル・スペースが関係している：

（11）　A：発話前の状態（参照点）
B：発話時の状態（焦点）
C：発話者の判断

ここでも，Aのスペースとは，剣道を過去のある時点で開始し，継続して来た，という発話前の状況である。Bは，剣道継続中という発話時の（真の）状況である。そして，Cは剣道継続中という発話時の（真の）状況に対する，現時点では短い，という発話者の判断である。ここでの「マダ」は，発話者の判断（１年では短いというべき）と発話時の現実（１年が経過）との対比，すなわち，A（過去）を参照点として，B（現実）とC（判断）を対比させ，Bを焦点化しているのである。

ここでは，「ある状態が継続している」という「原因」により「その継続している期間が予想以上に短い（という発話者の主観）」という「結果」が生じている。つまり，「原因で結果」のメトニミーにより 発話者の主観が入った＜短期継続＞という意味が派生している。

3.3　メタファーによる意味拡張

転義④＜妥協＞：｛２つの対象（状態・事象）を，発話時に対比して，圧倒的に良くはないが，片方がましである，と発話者が捉える｝

（12）　名称が変わったからと言って，現状の自衛隊の組織や装備が大きく変わるということではない。対外的なことを考えてのことだ。ただ，私は国防軍より自衛隊か自衛軍の方がまだいいという考え方です，個人的には。

（http://www.asahi.com/articles/ASG535FZZG53UTFK007.html）

上の例文で「マダ」は，明らかに非・時間（アスペクト）的意味において用いられているので，ここでの意味拡張はメタファーによるものである。時間軸というスケール（目盛）から対比・比較に基づいた程度差のスケールへと意味領域がシフトしているが，上の（12）の例文には次の３つのメンタル・スペースが関係している：

（13）　Ａ：対象１（参照点）
　　Ｂ：対象２（焦点）
　　Ｃ：発話者の対象１と対象２に対する評価

つまり，Ａのスペースとは，「国防軍」という名称である。Ｂは「自衛隊か自衛軍」という呼称である。そして，ＣはＡを参照点として発話者がＢを評価している。すなわち，Ａ（対象１）を参照点として，Ｂ（対象２）を対比させ，「絶対的に良い選択肢はないが，これに代わるものも他にはない」という発話者の評価を反映させることによりＢを焦点化しているのである。

転義⑤＜強調＞：｛発話前から存在する状態・事象の程度が，発話時以降も（良い方にも悪い方にも）進展する，と発話者が捉える｝

（14）　個人的にハープスター（競走馬の名前）はまだもう一段良くなる余地を残していると思う。しかし春にもう一戦残していることを考えれば，これで充分な仕上がりではないだろうか。

（http://alas1203.blog.fc2.com/blog-entry-883.html）

上の例文の「マダ」には，時間の推移とともに進展してきた状態が未来も進展していく，という含みがあるが，状態が継続するという側面に焦点が置かれているというよりはむしろ，状態の程度が時間の推移とともに進展する側面に焦点が置かれている。したがって，「程度」のスケール

へと意味領域がシフトしているが，上の（14）の例文には次の３つのメンタル・スペースが関係している：

（15）　A：発話時の程度（参照点）
　　B：発話後の程度（焦点）
　　C：発話後の程度に対する発話者の評価

ここで，Aのスペースは，競走馬の発話時の状態である。Bは競走馬の発話後の状態である。そして，CはAを参照点として発話者がBを評価している。すなわち，A（発話時の状態）を参照点として，B（発話後の状態）を対比させ，「発話後もよくなる」という発話者の評価を反映させBを焦点化することにより，評価の価値を高めているのである。

転義⑥＜有余感＞：｛発話前にもある程度の数量・分量があったが，発話時でも十分な残り（余裕）がある，と発話者が捉える｝

（16）　19日の夜にドーナツを母がたくさん買ってきてくれました。一人なので食べきれずに12個のうちまだ10個も残ってます…

（http://okwave.jp/qa/q3884015.html）

上の例文の「マダ」には，時間の推移とともに減少する数量・時間などがその最終限度（＝ゼロ）に未到達である，という含みがあるが，時間の推移という側面に焦点が置かれているというよりはむしろ，時間の推移とともに増減する数量という側面に焦点が置かれている。したがって，（数量などの）「到達点」のスケールへと意味領域がシフトしているが，ここでは次の３つのメンタル・スペースが関係している：

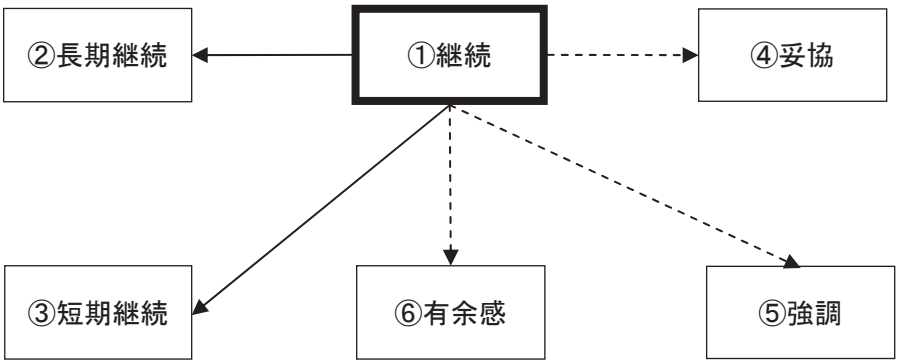
（17）　A：発話前の数量（参照点）
　　B：発話時の数量（焦点）
　　C：発話時の数量に対する発話者の評価

ここで，Aのスペースは，発話前のドーナツの個数である。Bは発話時のドーナツの個数である。そして，CはAを参照点として発話者がBを評価している。すなわち，A（12個）を参照点として，B（10個）を対比させ，「発話時点で個数は十分で，最終到達点０個になるまで余裕がある」という発話者の評価を反映させることによりBを焦点化しているのである。

3.4「マダ」の放射状カテゴリー

以上見てきた放射状カテゴリーとしての「マダ」の多義構造を図示すると次のようになる。なお，図２で実線矢印はメトニミーを，点線矢印はメタファーを表している：

図２　「マダ」の放射状カテゴリー



4.　英語“still”の多義構造

4.1　基本義

①基本義＜継続＞：｛発話前から始まった状態が，発話時も続いている，と発話者が捉える｝

ここでは“still”の基本義（プロトタイプ）を仮定する。“still”の基本的な意味[4]は，時間（アスペクト）に関するものと考えられる。次の例文における“still”のように，「ある動作・状態が続いている」という「時間の副詞」としてのものである。

（18）　About dark it started to rain. It rained hard all night, the next morning it was <u>still</u> raining.（暗くなった頃，雨が降り出した。一晩中激しく降って，次の朝もまだ降っていた）

（http://www.ohiostatetrapper.org/bt_july_2013.pdf）

4.2　メトニミーによる意味拡張

転義②＜長期継続＞：｛発話前から始まった状態が，発話時も続いていることについて，意外感を伴って予想以上に長い，と発話者が捉える｝[5]

（19）　Spring? But it's <u>still</u> snowing.（本当に春？だけどまだ雪が降っている）

（http://iceagenow.info/2014/03/spring-snowing/）

ここでもリー（2006: 156-160）における，参照点とメンタル・スペースの考え方を援用すると，上の（19）の例文には次の３つのメンタル・スペースが関係している：

（20）　A：発話前の状態（参照点）
　　B：発話時の状態（焦点）
　　C：発話者の予想状態

つまり，A のスペースとは，春が来たという発話前の状況である。B は春なのに雪が降っているという発話時の（真の）状況である。そして，C は春が来たので暖かいという発話時の（真でない）状況である。ここでの「マダ」は，発話者の予想と発話時の現実との対比，すなわち，A（過去）を参照点として，B（現実）とC（予想）を対比させ，Bを焦点化しているのである。

ここでは，「ある状態が継続している」という「原因」により「その継続している期間が予想以上に長い（という発話者の主観）」という「結果」が生じている。つまり，「原因で結果」のメトニミーにより発話者の主観が入った＜長期継続＞という意味が派生している。

4.3　メタファーによる意味拡張

転義③＜強調＞：｛２つの対象（状態・事象）を，発話時に対比して，片方が圧倒的に程度が高い，と発話者が捉える｝

（21）　A bowl of cereal with milk costs a lot less than buying a donut or muffin on the way to work. And a mid-afternoon apple or banana is still cheaper than a candy bar.（ミルクをかけたシリアル一杯のほうが通勤途中ドーナツとかマフィンを買うより全然お金がかからない。また，おやつはリンゴかバナナのほうがキャンディーバーよりずっと安い）
（http://coastalislandsplasticsurgery.com/your-health/condition_detail.dot?）

上の例文の “still” は，比較級を強めるために用いられているが，明らかに非・時間（アスペクト）的意味において用いられているので，ここでの意味拡張はメタファーによるものである。時間軸というスケール（目盛）から対比・比較に基づいた程度差のスケールへと意味領域がシフトしているが，上の（21）の例文には次の３つのメンタル・スペースが関係している：

（22）　A：対象１（参照点）
　　B：対象２（焦点）
　　C：発話者の対象１と対象２に対する評価

つまり，Ａのスペースとは，キャンディーバーを買う費用である。Ｂはリンゴかバナナを買う費用である。そして，ＣはＡを参照点として発話者がＢを評価している。すなわち，Ａ（対象１）を参照点として，Ｂ（対象２）を対比させ，「ずっと安価」という発話者の評価を反映させＢを焦点化することにより，その評価の価値を高めているのである。

転義④＜有余感＞：｛発話前にもある程度の数量・分量があったが，発話時でも十分な残り（余裕）がある，と発話者が捉える｝

（23）　The bus went emptier and emptier and we still had six kilometers to go.（バスはだんだんガラガラになっていったが，まだ６キロ行かなければならなかった）
（http://www.greeceisgreat.com/afissos2.htm）

この意味での “still” は another，other などと共に用いられることがあるが，上の（23）の例文の「マダ」には，時間の推移とともに減少する距離・数量・時間などについて，発話の前にもかなり余裕があったが，発話の時点でも，残っている分量が十分であり，その残部の質・量を強調するという含みがある。したがって，（距離などの）「到達点」のスケールへと意味領域がシフトしているが，ここでは次の３つのメンタル・スペースが関係している：

（24）　Ａ：発話前の距離（参照点）
Ｂ：発話時の距離（焦点）
Ｃ：発話時の数量に対する発話者の評価

ここで，Ａのスペースは，発話前のバスの目的地までの距離である。Ｂは発話時の目的地までの距離である。そして，ＣはＡを参照点として発話者がＢを評価している。すなわち，Ａ（６キロより長距離）を参照点として，Ｂ（６キロ）を対比させ，「発話時点で目的地までの距離は減ってきているが，最終到目的地までさらに走行距離がある」という発話者の評価を反映させることによりＢを焦点化しているのである。

転義⑤＜逆接＞[(6)]：｛先行する条件があり，その条件から予想される結果があるが，その結果は予想に反する，と発話者が捉える｝

（25）　It’s still raining, and I’m still happy about it.（まだ雨が降っている，それでもそれがうれしい）
（http://dysthymiabree.com/2014/04/11/its-still-raining-and-im-still-happy-about-it/）

上の例文の“still”は，先行する条件や前提とは関連性の少ない事柄が生じる，あるいは，前に述べられた事柄と対立する事柄が生じる，という含みがあるが，これも非・時間（アスペクト）的意味において用いられているので，ここでの意味拡張はメタファーによるものである。時間軸というスケールから「因果関係」のスケールへと意味領域がシフトしているが，上の（25）の例文には次の３つのメンタル・スペースが関係している：

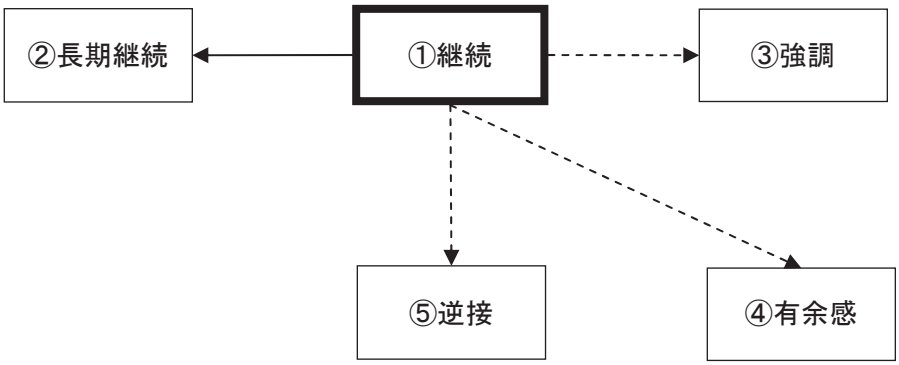
（26）　Ａ：先行条件（参照点）
　　Ｂ：標準予想結果（焦点）
　　Ｃ：発話者のＢに対する評価

つまり，Ａのスペースとは，雨がいまだに降っていることである。Ｂは雨が降っているのでうれしくない，という予想である。そして，ＣはＡを参照点として発話者がＢを評価している。すなわち，Ａを参照点として，Ｂを対比させ,「雨が降っているという事実があるのにもかかわらずうれしい」という発話者の評価を反映させることによりＢを焦点化しているのである。

4.4　“still”の放射状カテゴリー

以上見てきた放射状カテゴリーとしての「マダ」の多義構造を図示すると次のようになる。なお，図３で実線矢印はメトニミーを，点線矢印はメタファーを表している：

図３　“still”の放射状カテゴリー



5.　おわりに

本論では，日本語「マダ」と英語“still”について，認知意味論の観点から，その多義構造と意味拡張について分析を行った。その結果，明らかになったのは次の点である：

（27）a．「マダ」と“still”は多義語であり，放射状カテゴリーを構成する。
b．「マダ」と“still”の基本義として，それぞれ＜継続＞を仮定するのが妥当である。
c．「マダ」と“still”の意味拡張を引き起こす動機付けとしては，メトニミーとメタファーだけで，シネクドキはない。
d．「マダ」と“still”の共通の語義（転義）として，＜長期継続＞＜強調＞＜有余感＞がある。
e．「マダ」にしか見られない転義として＜短期継続＞＜妥協＞が，“still”にしか見られない転義として＜逆接＞がある。

註

（1）ここでいう「発話時」とは必ずしも発話の時点（現在）を指すわけでははい。
（2）「マダ」の基本義については，森田（1989: 1127），飛田・浅田（1994: 498），守屋（2007: 7）などの先行的研究においては「まだ見えない」「まだ着きません」のような用例に見られるような意味，すなわち「（ある状態の）未達成，未到達，未実現」を最も基本的なものとみなしている。しかし，この意味の「マダ」は，通常「マダ～ナイ」のように打消し語を伴った呼応形式で用いられる。つまり，用法上の制約があるということであり，これは基本義の典型的な特性（籾山 1992: 188），瀬戸（2007a: 4），瀬戸（2007b: 47）から外れる。むしろ，「ある状態の未実現状態が続いている」と再解釈すれば，結局，＜継続＞を意味しているのと同じである。
（3）ここでいう「メンタル・スペース」とは，Fauconnier（1994）による「メンタルスペース理論」におおむね準拠するものである。
（4）副詞“still”の語源は“Keep still!”（じっとしていなさい！）に見られるような「静止状態の」というものである。古英語と初期中世英語においては，「静止状態の」を意味する“still”の例は多数あるが，時間的意味と反意的意味の例は見出すことができない（リー 2006: 156）。
（5）“still”が含意する発話者の主観について，Swan（1995: 539）によれば，現在進行中の事がら，あるいは現在も進行中だと予想される事がらについて語るときに用いられ，現在ある事がらが驚いたことにまだ終了していないことを述べるのに用いられる。また，Quirk *et al.*（1972: 500）によれば，しばしば継続と反意の意味を併せ持っている。例えば，It's late and he's still working.（もう遅いのに彼はまだ働いている）のような文には，動作の継続だけでなく継続していることが驚くべきことだという含意がある。
（6）英文法では「譲歩」（concession）という用語が使われることが多いが，日常語としての「自分の主張の一部または全部をまげて，相手の意見と折り合いをつけること」（大辞林）という意味とは異なった意味で使われているので，本論では「逆接」を使うことにする。

参考文献

Fauconnier, G. (1994) *Mental Spaces: Aspects of Meaning Construction in Natural Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
飛田良文・浅田秀子（1994）『現代副詞用法辞典』東京：東京堂出版.
Labov, W. (1973) "The Boundaries of Words and Their Meanings," In: C.J.N. Bailey and R.W. Shuy (eds.) *New Ways of Analyzing Variation in English*, 340-373. Washington: Georgetown University Press.
Lakoff, G. (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind*. Chicago: The University of Chicago Press.

リー，D. 宮浦国江訳（2006）『実例で学ぶ認知言語学』東京：大修館書店.
皆島博（2009）「英語の副詞stillの多義構造」『福井大学教育地域科学部紀要』64：51-66.
籾山洋介（1992）「多義語の分析―空間から時間へ―」カッケンブッシュ寛子他（編）『日本語研究と日本語教育』185-199. 名古屋：名古屋大学出版会.
籾山洋介・深田智（2003）「意味の拡張」松本曜（編）『認知意味論』（シリーズ認知言語学入門第３巻）73-134. 東京：大修館書店.
森田良行（1989）『基礎日本語辞典』東京：角川学芸出版.
守屋哲治（2007）「継続相を表す副詞の意味拡張パターンの研究：認知言語学・言語類型論の観点から」『金沢大学教育学部紀要（人文・社会科学編）』56：1-12.
Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech, & J. Svartvik. (1972) *A Grammar of Contemporary English*. London: Longman.
Rosch, E. (1975) “Cognitive Representations of Semantic Categories,” *Journal of Experimental Psychology: General* 104: 192-233.
佐藤信夫（1992）『レトリック感覚』講談社学術文庫.
瀬戸賢一（1997）「第Ⅱ部 意味のレトリック」巻下吉夫・瀬戸賢一『文化発想とレトリック』（日英語比較選書①）94-177. 東京：研究社.
瀬戸賢一（編）（2007a）『英語多義ネットワーク辞典』東京：小学館.
瀬戸賢一（2007b）「メタファーと多義語の記述」楠見孝（編）『メタファー研究の最前線』31-61. 東京：ひつじ書房.
Swan, M. (1995) *Practical English Usage*. Oxford: Oxford University Press.
Sweetser, E. (1990) *From Etymology to Pragmatics: Metaphorical and Cultural Aspects of Semantic Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.
Taylor, J. R. (1995) *Linguistic Categorization: Prototypes in Linguistic Theory* (2 nde.). Oxford: Clarendon Press.
辻幸夫（2002）『認知言語学 キーワード辞典』東京：研究社.
Wittgenstein, L. (1978) *Philosophical Investigations* (*trans.* G.E.M. Anscombe). Oxford: Basil Blackwell.

参考国語辞典

『大辞林』（三省堂，第３版）
『大辞泉』（小学館，初版）
『広辞苑』（岩波書店，第５版）
『明鏡国語辞典』（大修館書店，初版）
『新選国語辞典』（小学館，第16版）

参考英和辞典

ラーナーズ プログレッシブ英和辞典（小学館，第２版）
ルミナス英和辞典（研究社，ウェブ版）
プロシード英和辞典（福武書店，改訂版）

参考英英辞典

Cambridge Dictionary of American English（第２版）

Longman Dictionary of Contemporary English（第３版）
Longman Dictionary of English Language and Culture（第３版）
MacMillan English Dictionary for Advanced Learners（新版）
Merriam-Webster's Dictionary（ウェブ版）
Merriam-Webster's Unabridged Dictionary（第５版）
Oxford Dictionary of English（第３版）
Random House Webster's Unabridged Dictionary（第２版）

例文検索ウェブサイト

https://www.google.com/